



■ 聖路加看護学会ニュースレター

第14号 平成15年11月10日 2003.11.10 No.14

過去のニュースレター

■ 目次

第8回聖路加看護学会学術大会を終えて

大会長 中山 洋子

第8回聖路加看護学会を振り返って

企画委員 粟生田友子

第8回聖路加看護学会学術大会の報告

- プログラム
- 座長・司会者のメモから
- 一言メッセージ
- 総会の焦点

第9回聖路加看護学会学術大会に向けて

平野 かよ子

第9回学術大会ご案内(第1報)

常葉恵子初代理事長への感謝

理事長 菱沼典子

お知らせ

編集後記

■ 内容

第8回聖路加看護学会学術大会を終えて

大会長 中山 洋子

今年の福島は秋の訪れが早かったのが天候が心配でしたが、晴天の9月27日、第8回聖路加看護学会学術大会は聖路加看護大学で開催され、無事に終わることができました。メインテーマを「看護の“知”と哲学的基盤」とし、私が聖路加看護大学在職中に関心をもった看護の知の水脈を明らかにすることに取り組んだ今大会は、内容に拘った学会となりました。もともと原稿を作って講義をすることは苦手な私が、50分という時間内に話しをまとめることは至難の業で、前日は夜を徹して原稿を書き、会長講演に臨むことになりました。しかし、朝になっても看護の知の水脈は掘り当てることができず、水脈を探す旅は続くことになってしまいました。

私は1992年に米国での留学を終えて聖路加看護大学に復職しましたが、看護におけるエキスパート性や実践知の問題は、年を追う毎にもてはやされ、10年も経たないうちに看護界の流行になってしまいました。これらは私の研究テーマでもあったのですが、誰もがエキスパート性や実践知について語るようになると、私は、反対に科学や理論の王道を走ってみたいくなかったです。実践知だけでは、看護は生き残れないという想いが私の中に湧き、米国から帰国してすぐに聖路加看護大学で先生方や大学院生と熱く戦った“科学論”が輝いて見えたのです。

現代の若者たちは、考えることがどちらかといえば苦手です。思い切り、難しい哲学に頭を突っ込んで考えてみたいという今回の企画は、シンポジウム「実践における“知”をめぐる」のシンポジストの問題提起を受けて深まりをもたらすことができました。とりわけ、わかりやすく「二人称の科学」を語っていただきました哲学者の野家啓一先生と苦勞の多い司会を引き受けてくださいました高田早苗さんには感謝の気持ちで一杯です。

常葉恵子前理事長から電話で「井部さんの次の大会、引き受けてくださる？」と言われ、「はい」と応えたものの、福島県立医科大学看護学部にいる聖路加看護大学同窓生で学術大会の企画・開催ができるかどうかは、見当が付きませんでした。現実感が薄かったことが何とかなると思わせたのかもしれませんが、未熟なやせ蛙でしたが、常葉先生が与えてくださった課題の柳に何とか飛びつき、役割を果たすことができました。企画委員の方々、本当にご苦勞様でした。また、最新のトピックスという新しい試みに協力していただきました方々、演題を出してくださった方々、そして何よりも、この学術大会を支え、盛り上げてくださいました聖路加看護学会の皆様方に心から感謝いたします。

第9回聖路加看護学会学術大会長にタスキを渡し、2004年9月に再び皆様と時代の先を見据えた看護を語り合えることを楽しみにしたいと思います。

↑ TOP

第8回聖路加看護学会を振り返って

第8回聖路加看護学会企画委員 粟生田友子

去る2003年9月27日(土)に聖路加看護大学において第8回聖路加看護学会が開催されました。今学会は、福島県立医科大学看護学部長の中山洋子先生の下、メインテーマに「看護の“知”と哲学的基盤」を据え、看護における“知”の問題を追究しました。

最初のセッションとなった会長講演では、「看護の“知”の水脈を探る」と題し、臨床知、実践知、暗黙知、経験知、Practical Knowledge、Knowing-howなどの看護実践の“知”の問題を取り上げながら、科学(Science)の時代にこれまでとは異なる地の水脈を掘り当てるといふ、中山大会長の果敢な探究が熱く語られました。

そして、それを受けて、午後のシンポジウムでは、「実践における“知”をめぐる」というテーマのもと、看護の科学を様々な立場の方々から、広角的に探究する試みを展開しました。シンポジストには、哲学の立場から東北大学の野家啓一氏が「“二人称の科学”の可能性」について講演され、さらに看護における知について聖路加看護大学小澤道子氏が「ナイチンゲールに倣う実践知」を、兵庫県立看護大学の野並葉子氏が「ケアリングと看護実践の知」を、そして医師であり看護師である立場から名古屋大学の山内豊明氏が「臨床における知の体系」を、それぞれ語られ、“知”の水脈の源流を見出す過程が次々と展開されました。

また、今年度のもう一つの新しい試みとして、午後の最初のセッションでは、「最新トピックス」と題し、時代をリードし、実践の場で活躍されている方々から、多くの話題提供をしていただき、活発な討議が展開されました。取り上げられた話題は、「WOC看護認定看護師の活動はケアの質の向上に役立ったか」「精神看護専門看護師のあり方を展望する」「小児看護専門看護師の役割」「新しいがんセンターはどのように作られたか」「医療制度改革と看護」「ドメスティックバイオレンス」で、この時間のみ参加者数はやや少なめでしたが、「時代をリードする」というねらい通りの興味深い話題を提供していただけ、聖路加看護学会らしい企画内容だったと好評を得ました。

今年度の参加者登録数は計223名で、発表演題は、口演14題と示説5題で、内容は多岐に及んでおりました。参加者の動向をみると、数的にはほぼ例年並の参加者数でしたが、他の看護基礎教育課程の学部生の参加が多数あり、新しい傾向だったようです。参加された方々から、「最初から最後まで、気の抜けない、盛りだくさんな学会だった」という評価をいただき、深まりゆく秋のたった1日の学会ではありましたが、おいでいただいた皆様にとっても、企画したものにとっても、収穫の多い日になったと確信できました。

企画した1年を振り返ってみると、東北の福島から築地に繰り出していくという不便さや困難さはいろいろな面でありました。母校であり開催地である聖路加と、企画者の実質上の距離があることがこんなにもたいへんだとは思いませんでした。とくに今年初めてすべての発表をPCで行う試みをしたことも、現地になかなか出向けない苦勞や困難を増強していたように思います。ですが、振り返ってみれば、時代の流れの中での一つのステップとしては必要だったと思いますし、是非今後に残って行って頂けたらと願っています。

最後に、多くの時間をかけて行ってきた企画が、とにかくもこのような充実した1日として実現できたことが何よりも嬉しく思います。学会直前に受け取った常葉先生の訃報も、私たち企画運営委員には一つの緊張感へとつながり、みな団結して総力をあげて対処できるきっかけともなったように思います。大会を最後まで盛り立ててくださった参加者の皆様、しっかりと運営を支えていただいた大学院修士課程の皆様、学部ボランティアの皆様、東北の企画として賛同いただいた宮城大学、岩手県立大学の皆様、そして聖路加看護大学の先生と支えてくださいましたスタッフの皆様々に感謝申し上げます。

↑ TOP

第8回聖路加看護学会学術大会の報告

●プログラム

アリス C.セントジョン メモリアルホール 9:35~10:30

“看護の“知”の水脈を探る”

会長 中山 洋子 (福島県立医科大学)

座長 平野 かよ子 (国立保健医療科学院)

シンポジウム

アリス C.セントジョン メモリアルホール 15:00～17:30

“実践における”知”をめぐって”

司会 高田 早苗 (神戸市看護大学)

シンポジスト

“「二人称の科学」の可能性” 野家 啓一(東北大学)

“ナイチンゲールに倣う実践知” 小澤 道子(聖路加看護大学)

“ケアリングと看護実践の知” 野並 葉子(兵庫県立看護大学)

“臨床における知の体系” 山内 豊明(名古屋大学)

一般口演

【第Ⅰ会場】(301講義室) 10:45～11:45 座長 押川 真喜子(聖路加国際病院)

1. 壮中年期透析患者の職業継続に関する対処行動の検討
佐々木彩子(聖路加国際病院)外崎明子(聖路加看護大学)
2. 日常用語としての“気持ち”が表す患者の経験
—血液透析導入期にある患者の経験世界の再分析を通して—
森田夏実(慶應義塾大学)
3. 水中歩行運動の継続効果—血清脂質・体力・QOLの評価からの報告—
関美奈子(和歌山県立医科大学看護短期大学部)
4. 糖尿病をもつ人の行動変容を促す要因—自己効力感との関係から—
瀬下友理子(聖路加国際病院)横山美樹(聖路加看護大学)

【第Ⅱ会場】(302講義室) 10:45～11:45 座長 香春 知永(聖路加看護大学)

5. 長座位と端座位の座位姿勢のちがいが生体に及ぼす影響
—自律神経活動指標を用いた検討—
上館紀子 船木和美 山田佳奈 高橋方子 山本真千子(宮城大学)
6. 看護行為としての洗髪が生体に及ぼす影響
—自律神経活動指標を用いた検討—
船木和美 上館紀子 山田佳奈 高橋方子 山本真千子(宮城大学)
7. キネステティックの概念を応用した体位変換に関する考察
塚田貴子 徳永恵子(宮城大学)
8. 臨床実践をイメージした新卒看護師対象の基本的看護技術演習
高屋尚子 寺井美峰子 川名典子 佐藤エキ子(聖路加国際病院)
佐居由美 横山美樹 下枝恵子(聖路加看護大学)
高井今日子(聖路加看護大学大学院)

【第Ⅳ会場】(402講義室) 10:45～11:30 座長 安藤 広子(岩手県立大学)

9. 卒乳を迎えた母親の思い —第2子出産後の振り返りを通して—
野本総子(葛飾赤十字産院) 有森直子(聖路加看護大学)
10. 35歳～65歳の女性のもつ更年期の認識とイメージ
野地有子(新潟県立看護大学) 長谷川真澄(神奈川県立保健福祉大学) 丸山知子(札幌医科大学)
11. 開発途上国における看護コラポレーターが認識する活動上の問題と課題
水野恵理子(長野県看護大学) 大迫哲也(前聖路加看護大学)
平林優子 酒井昌子 有森直子 田代順子 菱沼典子(聖路加看護大学)

【第Ⅴ会場】(403講義室) 10:45～11:30 座長 野末 聖香(慶應義塾大学)

12. 精神障害者への急性期ケアプロトコール実施過程における精神看護専門看護師の役割
宇佐美しおり(熊本大学医療技術短期大学部)
13. 精神科病棟看護スタッフへの教育的支援の試み
—大学教員が参画したケースカンファレンスの利用・参加者からの評価—
大竹真裕美(福島県立医科大学)
14. 進行がん終末期の喪失の悲嘆過程を支えること
—がん性髄膜炎まで及んだ進行性胃がん患者1事例の検討—
只浦寛子 吉田俊子(宮城大学)

ポスターセッション

2階ラウンジ 10:45～11:30 司会 塩野 悦子(宮城大学)

1. 音楽療法を応用したケアの試み —入院患者を対象に—
那須実千代(健和会臨床看護学研究所)

2. エキスパートナースによる気管内吸引ケアの実際
－呼吸ケアナースへのインタビュー、観察から－
濱畑千絵(東京慈恵会医科大学附属病院) 菱沼典子(聖路加看護大学)
大久保暢子(聖路加看護大学)
司会 松谷美和子(聖路加看護大学)
3. 基礎看護学臨地実習における学生の体験世界
－ナラティブ・インタビューを用いた事例検討－
矢野理香(天使大学)
4. 看護職者の専門職性に関するA看護大学における看護学生の認識
小野塚里沙(聖路加国際病院)
5. 初学者への「日常生活・診療」に伴う基礎看護援助技術の学習のあり方
－ドレフアスモデルの第1段階・第2段階に準じて－
牧野美幸(神奈川県立保健福祉大学)

最新のトピックス

第Ⅰ会場(301講義室) 13:50～14:40 司会 佐藤 エキ子(聖路加国際病院)

1. WOC看護認定看護師の活動がケアの質の向上に役立ったか？
－ストーリーケア、褥瘡ケアを中心に考える－
佐藤エキ子 南由起子 渡邊千登世(聖路加国際病院)

第Ⅱ会場(302講義室) 13:50～14:40 司会 福田 紀子(横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター)

2. 精神看護専門看護師のあり方を展望する
－精神科CNSはどのような役割を果たしているのか－
福田紀子(横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター)
宇佐美しおり(熊本大学医療技術短期大学部)
野末聖香(慶應義塾大学) 片平好重(横浜市立市民病院)
住吉亜矢子(横浜市立港湾病院)

第Ⅲ会場(401講義室) 13:50～14:40 司会 佐藤 奈々子(横浜市立大学医学部附属病院)

3. 小児看護専門看護師の役割－今、小児CNSに求められていること－
萩原 綾子(神奈川県立こども医療センター)

第Ⅳ会場(402講義室) 13:50～14:40 司会 手島 恵(千葉大学)

4. 新しいがんセンターはどのように作られたか
濱口 恵子(静岡県立静岡がんセンター)

第Ⅴ会場(403講義室) 13:50～14:40 司会 平野かよ子(国立保健医療科学院)

5. 医療制度改革と看護
岩澤 和子(厚生労働省)

第Ⅵ会場(404講義室) 13:50～14:40 司会 加納 尚美(茨城県立医療大学)

6. ドメスティック・バイオレンス
－新たな看護の挑戦－
片岡 弥恵子(聖路加看護大学大学院)

↑ TOP

●座長・司会者のメモから

<メイン会場>会長講演

■本年の学会テーマは、看護の“知”と哲学的基盤であった。大会開催の学会理事長のあいさつに引き続き、大会長の中山洋子氏から「看護の“知”の水脈を探る」の演題で会長講演が行われた。中山氏が科学哲学に興味を抱くようになった経緯をはじめ、看護が科学でありアートであるという看護の実践的な“知”を表現するものとして、現象学的アプローチとして古くはウェーデンバッハの「臨床看護の本質」、ディコフとジェイムズとの「状況算出の規定理論」から、P. ベナーの「初心者からエキスパートへ」に示されたドレフアスモデル、野中郁次郎氏のSECIモデル等が大変参考になるとして紹介された。これらを手がかりとしながら、さらに新たな看護の知の水脈を探るとともに、実践的な知の表出方法とその知の体系化を図る研究の集積のあり方を充実させたいとの熱意が話された。

<第Ⅱ会場>一般口演

■看護技術をテーマに、2題は、生理学的指標から技術の根拠性の探究に焦点をあてたもの。1題は、体位変換に関する新たな概念の導入にむけたもの。1題は、基本的看護技術演習をとり入れた新卒看護師対象の新人オリエンテーションプログラムの評価を試みたもの。の計4題が報告された。看護実践者の用いる技術へのアプローチの多様性、新しい試みという刺激があったと思います。臨床教育という枠をはずし、看護技術について考える、見直す場がもてたのではないかと思います。

<第Ⅳ会場>一般口演

■3題は、研究対象、研究方法、看護領域も異なり、看護の広さや深さを感じさせるものであった。1題目は、一人の母親の母乳育児における卒乳の想いを質的記述調査で、2題目は、更年期のイメージについてのS市の35～65歳の女性、1100名に質問紙調査で、3題目は、発展途上国への看護支援に携わった人達への調査から支援者に対する学習体制のモデル構築に向けて整理されたものであった。

<ポスターセッション会場>

■音楽療法の発表では、音楽を話題にやりとりをして、ケアの中に取り入れることによって、患者の人生のふりかえりに繋がるということを学びました。会場からは、脳疾患の親をお持ちの方のご意見や、ターミナル患者にとっての音楽の力の大きさなどのご意見が述べられ、人生の中における音楽の偉大さをあらためて、認識する機会となりました。呼吸ケアナースの発表においても、活発した討議が行われました。まず、既存の教科書の吸引方法の説明についての確認の意見があり、最新の内容を見直す必要がありました。また、今後の研究の方向性が問われ、エキスパートナース特有の技術を明らかにするには、さらに研究方法の精練が必要と思われました。

<第Ⅲ会場>最新のトピックス

■大学病院勤務の小児看護CNS長田氏から、子供の在宅等、小児看護CNSの活動の今後の展望と、院内研修などを通して病院全体の看護の質向上に参画する役割について述べられた。会場から、「小児専門病院でCNSが受け入れられていくプロセスについて」の質問があり、萩原氏は、看護師と多職種にみとめられるきっかけの一つに、得意な領域(課題研究:排泄障害のこどもと家族のケア)を生かし、実践の中で、結果を出してゆき、その後、在宅人工呼吸器療法のケース等、小児看護CNSとしての活動を展開していることが述べられた。教育の立場から、「CNSが教育に求めることは何か」という質問があった。小児看護CNSの活動では、例えば看護部と共に所属組織長や行政との交渉の一端を担う役割があり、管理者と協働していく知識・技を教育を通して身につけていくことの必要性が司会の佐藤氏から述べられた。

<第Ⅴ会場>最新のトピックス

■厚生労働省医政局看護課課長補佐の岩沢和子氏より、医療制度改革の動向と看護行政のトピックスについて話題提供がなされた。

医療制度改革については、①保健医療システム、②医療保険制度、③診療報酬体系の改正の方向について解説された。

看護行政トピックスとしては、①医療安全対策の総合的な推進と人材の育成、医療安全支援センターの設置の経緯、②時代の要請に応じた看護のあり方検討会の報告、特に訪問看護を担う人材の素質の向上のあり方が検討されたことが紹介された。会場からは看護教育の基礎教育における技術教育の充実、ターミナルケア等において医師の包括的な指示で活動できるなど看護師の専門性が評価される方向への政策誘導を望む意見など活発な意見交換がなされた。

<第Ⅵ会場>最新のトピックス

■参加者は、約30人(内、男性4名)

4人の方から質問、意見がある。

1)介入の中には、カウンセリングも含まれるのか?

カウンセラーではないが、別のスタンスで行っている。主には、話を聴く、本人が元気になるように。

2)DVについての、関心があったが、具体的事例がよくわかった。

3)若い人たち、特に男性の側の性教育が大切なのではないか?

まずは、被害者支援が急務というのが、日本の現状。

4)暴力をふるう側の精神病理の解明も必要。

↑ TOP

●一言メッセージ

★最新のトピックスがとても興味深いものでした。来年が楽しみです。(匿名)

★いろいろな講義を聞いて、知識が増えたので良かったです。特にDVの講義では、今まで、自分が考えていたより、ひどい事を女性が受けていると知り、とても驚きました。また、このような機会があれば、聞きたいと思います。(奈良、19歳、K. N.)

★毎年、学会に参加していますが、今年は、特に、「最新のトピックス」が充実しているように感じました。どのトピックスも興味深く、1つしか参加できないのが、残念でした。(和歌山県、Y. S.)

★質の高い内容で、難しかったが、勉強になりました。昼休みも長かったので、聖路加の敷地内の探索が出来て楽しかったです。(昔Nsとして勤めていたので、懐かしかったです。)(千葉、54歳、H. Y.)

★とても、和やかな雰囲気の中、スムーズにプログラムが進行し、気持ちよく学会に参加できました。「キネステック」など、新しい概念にふれることができました。ありがとうございました。(東京 S)

★会長講演、シンポジウムともに、テーマが興味深く関心をもって、聞かせて頂きました。来年もよろしくお願ひします。(S.)

★普段、臨床の現場につきりきっていて、この学会に来るとホッと様々な範囲の知見の広い話が聞けるので、楽しみです。今回は、「看護の「知」」ということで、かなり難しいお話でしたが、ここでないと聞けない話だったので、大変よかったです。専門学会では、聞けない話が聞けますよ。(東京都、40代、Y. H.)

★普段、聞けないような話をいくつも聞かせて頂いて、大変ためになりました。特に、DVについては、興味深く、事例を用いて話して頂いたのが、よかったです。これから、もっと勉強を深めていきたいと思ひます。看護研究等、これからの実践の場

に、役立てていきたいと思います。今日は、1日、ありがとうございました。(奈良、19歳、A. K.)

★大学と病院との連携がとれていると、感心しました。(神奈川、46歳、M. K.)

★医療も看護も常に先がることを学びました。興味のある話ばかりで、とても勉強になりました。(奈良、19歳、K. M.)

★興味のある内容の講演を選んで、話を聞くことができたところが良かった。(奈良、19歳、Y. M.)

★さまざまな発表や考えに共感する部分や、新しい見方、考え方があり、研究には発見があり、新たな課題が見つかり、常に前進していくことで、より深い所へ知識が深まり、自分を高めていけるのだと感じられました。(Y. H.)

★どの方も、話の内容が難しく、まだまだ知らない事が沢山あるなと感じました。今日聞いた中でも、理解できたことは、沢山あったので、これからの看護に対する考え・姿勢の一部として、役立てていきたいと思います。(奈良、21歳、Y. K.)

★学会の初めての参加だったので、どんな雰囲気なのか楽しみにしていましたが、日々の学習では、なかなか詳しく話を聞くことができないような、哲学の話、認定Nsの方の話など、興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。(奈良、25歳、T. E.)

★話の内容がすごく難しかったけど、興味あるものは、すごく感心して聞かせて頂きました。この学術大会に参加させていただき、ありがとうございます。OHPやスライドを用いて、分かりやすく講演していただき、ドメスティックバイオレンスや人工透析のことも、知識を深めることができました。私も、看護学生として、一生懸命がんばりたいと思います！！(奈良県五條市、19歳、M. U.)

★テーマは興味深いものであり、シンポジストもよかったと思います。ただ、もう少し臨床の方の、実際の「状況」もふまえた話があってもよかった気がしました。(匿名)

★根拠に基づいた看護実践が必要とされる現在、看護師自身が、意図的に実践、そして、それを文章表現する学習ができた。刺激を受けた。教育に生かしたい。お世話になりました。(奈良、50歳、O. R.)

★毎回の会長講演のテーマは、看護学の潮流を示唆していると感じ、それにとまなうシンポジウムと共に、今を生きる看護者としての視点、自信を得るのに参考になり、エネルギーを与えられて、帰途につくのです。又、一般演題学も、日頃の実践が見えている色々な意味で、刺激となります。(鹿児島、78歳、S. I.)

★ベナーの直感論、Knowledgeのサイエンスを追求するシンポジウムと研究は、とても興味深く、聞かせて頂きました。有意義な一時でした。(大阪府、関 美奈子)

★日常の忙しい業務の中、看護の向上をはかるため、日々、看護師の方は、研究に励んでらっしゃるのだと知り、看護師の仕事がますます尊敬できるものになりました。私もこれから臨床で働いていく中、よりよい看護を提供できるよう看護の問題を探究していきたいと思いました。(奈良、30歳)

★学会に初めて参加させて頂き、勉強になりました。今後も日々勉強し、患者さんにとって、どのようなケアが一番いいのか考え、心理面でも支えていけるような看護師になりたいです。(奈良県、28歳、M. I.)

★以前から、興味を持っていた精神看護について、実際の発表を聞くことができ、とても勉強になりました。精神的なことは、形に表しにくく、とても難しい問題だと思います。今回の発表を参考にし、これからも、精神看護について深く学んでいきたいと思っています。(奈良県、21歳、Y. K.)

★ターミナルについて、とても興味が持てました。段階をふんで、最終的に承認までいく。私は、味わったことない気持ちを看護する難しさ。。。最期の時間を過ごす大切さ。。。もっと深く、学べたらいいなあと、思いました。(奈良、19歳、M. S.)

★今回、DVの口演で、女性の安全を守るためのプランなどの対処法についての話があったけど、逆に暴力をふるってしまう男性についての精神的な治療についての話を聞いてみたいと思います。(奈良県、19歳、H. S.)

★今回初めて、学術大会に参加し、いろいろな話を聞くことで、感じ、考えることができたと思います。いろいろなことを感じ、自分なりに、考えることは、必ずいつか役に立つはずだと思うので、これからも、そういう体験をしていきたいと思いました。(奈良県、19歳、I. S.)

★貴重な機会をありがとうございました。とても興味深い話もあり、「看護」という職業の奥深さを知り、又、今までの自分の軽率な態度を恥ずかしく思っています。(奈良県、19歳、I. M.)

★興味ある内容の口演を聴くことができたので、参加して本当に良かったと思います。スタッフの皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。(奈良県、19歳、K. Y.)

★ドメスティックバイオレンスに関して側面的ではなくて、全体像として、しっかり見て欲しいと思った。どの話も難しく、まだまだ勉強が必要なことを実感した学術大会でしたが、得るものも多かったと思いました。これからの看護実践に役立たせられるようにしたいと思います。
(奈良県、20歳、D. K.)

★みなさん、自分の意見をしっかり持っていて、すごいなと思いました。癌センターの話が印象的でした。
(奈良県、20歳、S. T.)

★最新のトピックスの「新しい癌センターはどのようにつくられたか」が一番、印象に残っています。多種職種チーム医療の鍵は、看護師が握るという言葉もとても印象的でした。
(奈良県、20歳、M. M.)

★初めて学会に参加して、とても新鮮でした。学校の講義とは違った場で、勉強できてよかったです。
(奈良県、20歳、H. M.)

★レベルが高すぎて、難しかったです。色んな視点からの看護の話聞いて、勉強になりました。
(兵庫県、20代、K.)

★特にDVの話が印象的でした。このように、とても根が深く、完全解決が困難な問題に看護職として、どのように介入しているか、課題がまだまだ多くあることがよくわかりました。
(奈良、38歳、藤井和彦)

★ドメスティック・バイオレンスというのが、とても印象深かったです。医療が女性にとって、利用可能性の高い社会資源として、認識され、つながりを持ちつづけることができるように、努力しているんだということがわかりました。
(奈良、U. N.)

★看護とは、「知」について、考える機会を頂きました。ナイチンゲールをもう一度、学習しようと思えます。
(奈良、50歳、I. H.)

★学会は、とても聞きやすく、とても勉強になりました。発表者の方々は、自分の研究した内容を1つ1つ、深いところまで理解しており、私としても、とても興味を持ちながら、聞くとこができました。また、自分の聞きたい内容を聞くといった方式でしたが、できれば他の発表も聞きたかったです。
(大阪府、20歳、R. U.)

★午後の最新トピックスでは、広い会場にも関わらず、参加者が10名と非常に寂しかったです。内容的には、とても良かったのですが、同時間帯に、6つのセッションがあったためかと思われます。もう少し、セッションの数をしぼっても良かったのでは、と感じました。(参加者が少ないと、演者の方にも失礼という感じもします。)
(東京、M. Y.)

★普段、詳しく聞けないような内容の話聞くことができよかったです。最新トピックスでは、自分の興味のあることが聞けて、より深く興味を持つことができました。
(奈良、19歳、H. S.)

★短い発表時間の中で、とても充実した内容の発表が聞けて良かったです。
(奈良、20歳)

★とても難しく、看護上の課題はあるけれど、これからの看護の方向性が理解でき、とても良い勉強になると思えます。
(奈良、19歳、T. K.)

★DVについて話を聞きましたが、特に女の人側だけでなく、男の人の方(加害者)に目を向けることも大切だなあと感じました。
(奈良県、20代、女、N. S.)

★DVの発表を拝見しました。興味深い内容で、医療者側の取り組みや(調査の結果など)現状が具体的に知れてよかったです。
(奈良県、20代、S. H.)

★盛りだくさんの発表で、じっくり考える機会を与えて頂きました。
(東京、30代)

↑ TOP

●総会の焦点

2003年度の総会は、聖路加看護大学アリスC・セント・ジョンメモリアルホールにおいて、当学会の初代理事長常葉恵子氏の御逝去にあたり黙祷をもって始められました。

菱沼理事長挨拶に続いて、2003年度の委員会活動報告、会計並びに監査報告がなされ、2004年度の事業計画が説明されました。

今年度の活動報告では、大きく3つの動きがありました。まず、日本学術会議への学術研究団体の登録は、第19期会員候補者として予防医学並びに地域医学の二領域を申請登録いたしました。

次に、学会誌発行の経費見直しをすすめて検討を重ねた結果、印刷業者の変更、学会誌送付方法の変更による経費の節減が実現しました。今後も三年に一度ほどは、経費等の見直しを検討する必要があると示唆されました。学会誌は、若手の寄稿が増え、また、内容も充実しています。今後も看護実践、看護教育現場からのフレッシュな研究論文の寄稿が期待されます。本年度の学会誌は800部が作成され、看護学部のある大学図書館等からの購読希望にも応えています。

3つ目は、学術交流委員会の活動です。6月には「あなたのひとことが相手を傷つけていませんか―心に傷を負った人と向き合うために―」と題した学術交流会が行われました。参加者は23名でしたが、参加が叶わなかった会員の方々にも是非ご紹介したい興味深い内容でしたので、学会誌への掲載が予定されています。どうぞ一読下さい。また、次年度の学術交流会のテーマは「電子カルテの光と影」(仮題)を予定しています。会員の皆様には、ご関心をお持ちの周囲の方々をお誘いの上、是非ご参加下さいませよう御願ひ申し上げます。

総会では、上記報告の他に、第9回学術大会会長の承認及び第10回学術大会会長の推薦が行われました。次期大会長

として国立保健医療科学院公衆衛生看護部部長の平野かよ子氏が承認されました。テーマは、ここ2年ほどは看護と文学、看護と哲学が中心テーマでしたので、次に来るべきものを現在模索中です。どうぞご期待下さい。2005年度の開催を予定しております第10回学術大会会長には、当学会の設立当初より学会の発展にご尽力されております聖路加看護大学教授の小澤道子氏が推薦されました。また、常葉恵子評議員の御逝去による欠員に伴う補充が、会則第12条に基づいて評議員会でわれ、新たな評議員として小澤道子氏が推薦され、決定した旨の報告がありました。

この他の重要案件としては、学会の運営費について、これ以上の経費節減は困難なこと及び収入が不足していることが報告されました。これに対し、会費納入の徹底と、会員数の更なる増加へ向けた呼びかけを行うことが確認され、ゆくゆくは会費の値上げも考慮せざるを得ないことが述べられました。

最後に、学会参加認定証の発行について、専門看護師や認定看護師の方々などからのご希望があり、今大会では希望のあった方に学会長及び大会長の署名入り参加認定証が発行されました。そこで、これを機に参加認定証等に用いる学会のロゴを皆様から募集することになりました。どうぞ皆様のアイデアをお寄せ下さい。詳しくは折込みをご覧ください。

学会事務局

↑ TOP

第9回聖路加看護学会学術大会に向けて

大会長 平野かよ子(国立保健医療科学院)

第8回の学術大会は、中山洋子大会長の下で“看護の‘知’と哲学的基盤”をテーマとして、看護の知を探る会長講演、そしてシンポジウムが行われ、参加者からも大変興味深いテーマであり、充実した内容との評をいただく素晴らしいものでした。

第9回の学術大会は、2004年9月25日(土)に聖路加看護大学で開催します。これまでのテーマは比較的臨床看護に焦点が当てられていましたが、次年度は保健活動に焦点を当てたいと思います。保健活動は、家庭、地域、職場、また学校という人々が生活する場へ看護職が向き、さまざまな人々との協働の場をつくり、その都度状況に応じた知恵を産み出し活動することを原型としています。そのあり方は、「手順」等のマニュアルに整理しがたいものが多く、実践の場において体得され継承・発展させてきており、看護職間でも理解されにくいものです。

第9回の大会では、保健活動の実践の方法を参加者の皆さんが表出し、活動の中で産み出している知恵を多くの人々に理解される形に表すことに挑戦したいと思います。もちろん臨床看護における実践的な知についても本年の大会の成果を引き続き発展させていきましょう。様々な領域で活動される看護職の方々のみならず、他領域や一般市民の方々の参加を得た大会にしたいと願っています。皆様の参加と協力を期待致します。

第9回学術大会ご案内(第1報)

日時 : 2004年9月25日(土) 9:00AM~5:30PM
場所 : 聖路加看護大学

第2報は次回ニュースレターで行います。

大会事務局: 国立保健医療科学院公衆衛生看護部
第9回聖路加学会学術大会事務局
FAX: 048-469-7683

↑ TOP

常葉恵子初代理事長への感謝

理事長 菱沼典子

本年8月5日に、本学会初代理事長の常葉先生が逝去されました。9月27日の総会で報告し、参加された会員の皆様と黙祷を捧げました。心からの感謝を込めて、ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

看護界初の博士後期課程が1988年に開設されたのち、学会の設立が計画され、1996年に本学会が発足しました。この博士後期課程と本学会の設立に常葉先生は尽力され、「看護実践を研究活動を通して世の中に示していく責任と役割が課せられている」と第1回学術大会の会長講演のなかで、本学会を位置づけられています。発足から2期6年にわたり理事長を務められ、第1回学術大会長の任もとられて、学会の基礎を固められました。学術団体として日本学術会議に登録することや、学会誌を医学中央雑誌、CINAHL、MEDLINEへ登録するなど、小規模ながら質の高い学会をめざして、活動を進めてこられました。

今回のあまりにも突然の異国でのご逝去は、思いもかけないことでしたので、会員の皆様には9月末の学会で常葉先生にお会いになるのを楽しみにしておられたのではないかと思います。今年の第8回学術大会では、中山洋子会長が講演の冒頭で常葉先生の思い出を話され、また次回の平野かよ子会長も総会の席で、常葉先生から会長の打診があった話をされてきました。常葉先生の本学会に対する思いに暖かなお人柄が加わり、ここまで成長してきたのだと思います。

先生が天国で『よくやってるわ』と安心していただけるよう、本学会の方向性を確認しながら会員の皆様とともに前進していくことが、先生への感謝をあらわす方法だと思っています。

↑ TOP

お知らせ

★学術交流委員会から

テーマ：電子カルテの光と影—IT時代における看護の可能性

日時：2004年6月5日(土)13:00-15:30

場所：聖路加看護大学

パネリスト：鶴田恵子氏(東京医科歯科大学病院看護部)、
水流聡子氏(東京大学大学院工学系研究科)、他交渉中。

主旨：病院における電子カルテ化の動きが急の昨今ですが、これによりどのような変革がもたらされ、乗り越えなければならない課題は何なのかについて、看護管理、看護システム開発、研究それぞれの立場から話して頂く予定です。まさにIT時代の看護の可能性を皆様と共に探りたいと考えています。たくさんの方のご参加をお願い致します。

メンバー 太田喜久子(委員長)、秋山正子、鶴田恵子
中村めぐみ、野崎真奈美、横山美樹

★学会誌編集委員会

平成16年度の新委員会がスタートします。本年度は、上泉委員長を中心とし、作業を進めていく予定です。原稿締め切り(第8巻第1号、2004年度6月発行予定)は、2004年度1月31日となっております。会員の皆様方から多くの投稿をお待ちしております。

(編集委員 大久保)

★会計からのお願い

2004年度の活動が10月1日より開始いたしました。本年度の年会費(5,000円)の納入をお願い申し上げます。なお、前年度までの納入がお済みでない方は、併せてよろしくお願ひいたします。振込先は下記の通りです(同封の振替用紙をご利用ください)。

年会費の振込先：郵便振替口座 00100-8-670371
加入者名：聖路加看護学会
年会費：5,000円

(担当理事：中山洋子、桃井雅子)

★庶務から

皆様のまわりの方々に当学会への入会をお勧めしてください。「入会のしおり」のご請求、会員の皆様の勤務先、連絡先のご変更などがございましたら、ファクシミリまたは郵便で学会事務局にご一報ください。なお、入会申込用紙は学会ホームページからもダウンロードできます。

(庶務：佐藤エキ子、亀井智子、松谷美和子)

↑ TOP

▲ ページトップへ

[学会について](#) | [入会案内](#) | [お問合せ](#) | [よくある質問](#) | [学術大会](#) | [ニュースレター](#) | [学会誌](#)

St. Luke's Society for Nursing Research | [サイトマップ](#)